巻頭言

宇宙教育研究所が設立されて4年目が終了しようとしております。活動の2大柱の一つであった内閣府 最先端研究開発支援プログラム「日本発の『ほどよし信頼性工学』を導入した超小型衛星による新しい宇宙開発・利用パラダイムの構築」サブテーマ7実践的宇宙教育・人材育成に関する研究は今年度が最終年度であり，これまでの活動を通じて国内外に多くの成果を残すことができました。

まず，それまで混沌としていた「宇宙教育」という概念を明確化し，科学・工学教育への「導入」，PBL（プロジェクトベースドラーニング）の素材，専門教育，大規模プロジェクトのOJTの4つの目的を示し，それぞれに適した教育プロラムの開発を行い，国内外に普及させることができました。これらの活動が国家戦略の中でも重要な位置づけにあることは，文部科学省宇宙科学小委員会での報告や，先日も開催されたシンポジウム「和歌山を，宇宙からの防災・教育の拠点に」でも明確に示されております。これらの成果を残すことができましたのも，所員の協力と大学内外の皆様の御協力・御助言があってこそと考えております。心よりお礼申し上げます。

宇宙教育研究所のもう一つの活動の柱であった文部科学省 超小型衛星研究開発事業「日本主導の超小型衛星網UNIFORMの基盤技術研究開発と海外への教育貢献」事業は，来年度にいよいよ衛星打上・運用も控え，最終年度を迎えます。現在，この成功に向けて鋭意努力を続けております。引き続き皆様の御協力をよろしく御願いいたします。

一方でこれまでの成果を踏まえつつ，国内外の情勢変化にも対応し，新しい役割を担った活動を展開することが，強く求められています。大学の中での役割，地域社会の中での役割，地域大学の中での役割，国内での役割，海外に対する役割を明確に理解しつつ，ステークホルダーの皆様とも調整しながら，活動を行っていきたいと考えております。

特に，これまでの活動で開発してきたPBL型授業の拡大は急務と考えております。またこれらのノウハウを海外にも移転し，我が国の将来を支える太い人的パイプを構築することは，引き続き重要な課題です。また国家プロジェクトでもある「宇宙の実利用推進」の先陣として，県内では特に重要な意味を持つ防災・減災活動に関して，当事者としてその能力を発揮していくことが強く求められています。これらの課題や期待に対して，今後も全力で取り組んでいきたいと考えております。

これからも引き続き，国内外の多くの大学・研究機関，教員の方々，また高校の先生方，民間企業の方々に御協力いただき，進んでいきたいと考えておりますので，御支援・御協力・御指導を賜りますよう，心よりお願い申し上げます。

宇宙教育研究所　所長

秋山　演亮